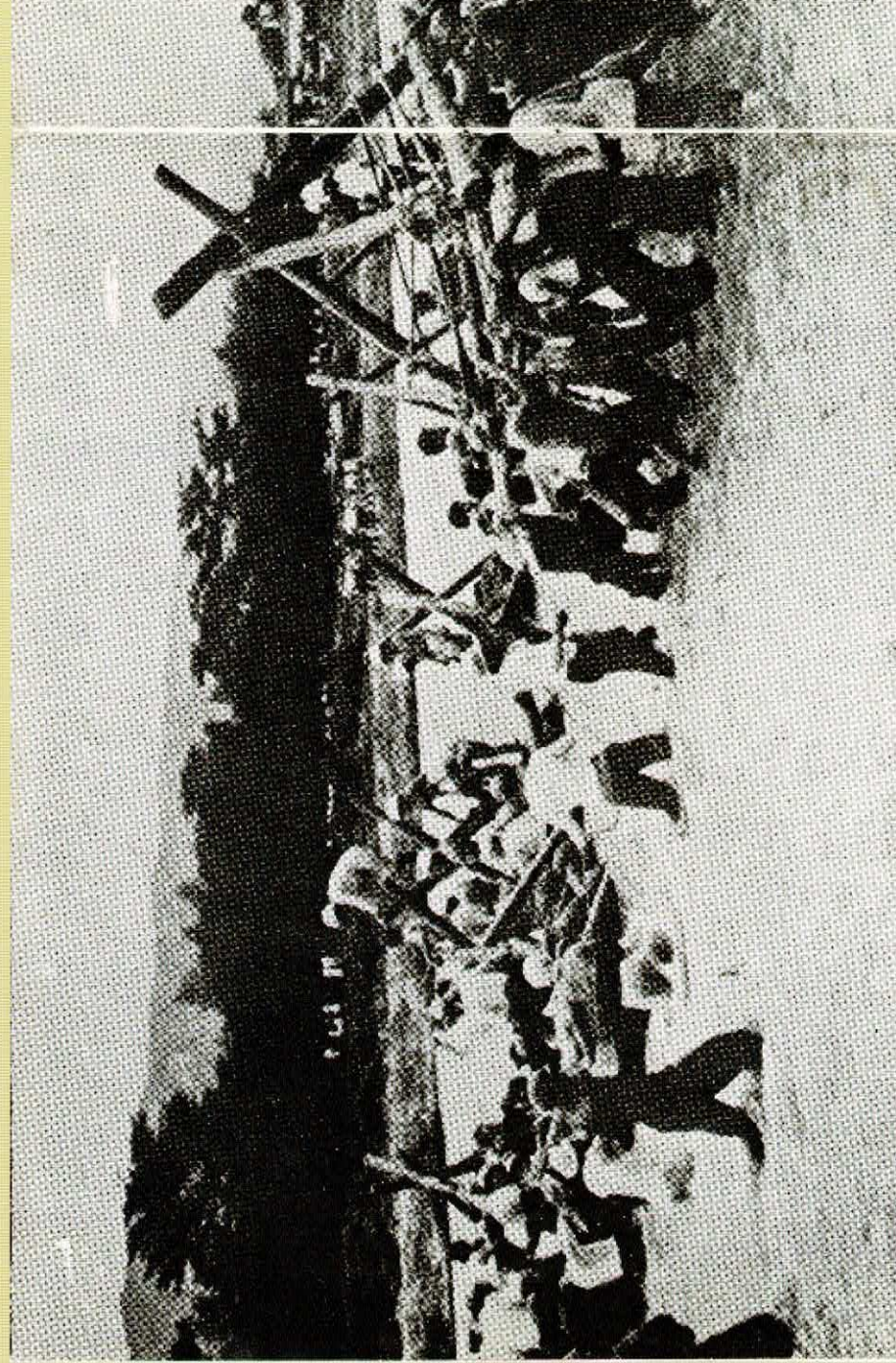




私たちの

防災ハンズブック

表佐地区版



防災ネットワークOSA

2023年（令和5年）1月

防災対策は、日頃の備えから！

モノ コト 情報の備えとヒトとのつながりを

近年は毎年のように日本各地で大きな災害が起きています。そして被災地の人たちからは「こんな大雨は今までなかった」とか「まさかこんなに降るなんて」と嘆いている声を聞きます。そうです。他人事ではないのです。ここ表佐でもどんな大雨、暴風にさらされるかわからないのです。

また、南海トラフ地震も目前にまで迫っているとも言われます。大変巨大な地震が発生すると予想され、そうなるとう行政の救援や支援が遅くなることもあるので、自助・共助が重要です。

防災対策の日頃からの備えは次の3つが最も大切です。

①モノの備え

非常用持ち出し品や非常用備蓄品、家の耐震化、家具の固定などです。

②コトの備え

災害が発生しそうなとき、発生したときにどう行動すればいいかの備えです。練習や訓練なしでは、災害が発生したときに命を守ることはできません。

③情報の備え

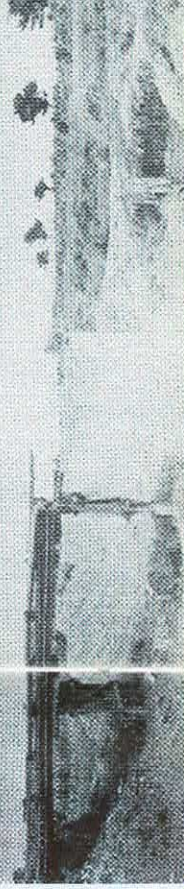
災害で停電になったときに、情報を得ることができるように備えることです。しかも垂井町からの情報や相川の水位等の身近な情報です。また、家族同士の連絡、親戚への連絡手段も確保する必要があります。

そして災害のときに頼りになるのが隣近所です。日頃から近所の方とのつながりを大切にしましょう。

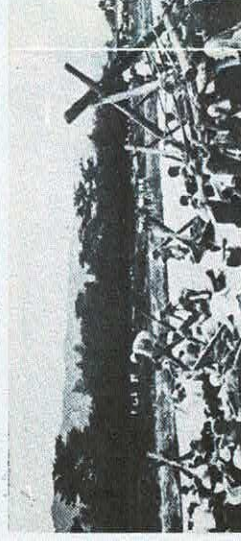
本書は、災害や防災に関する知識を深めることに加え、チェックし必要事項を書き込むことで、日頃の防災に関する対策を見直し、いざというときに役立てることができます。

ぜひ本書を有効に活用し、家族で防災についてしっかり話し合っておきましょう。また、近所の人たちとのつながりを大切にしていきましょう。

高田橋流失現場



○このハンドブックを活用して、地震や台風・大雨への準備をおきましょう。
○いざというときにすぐに行動できるように、このハンドブックを活用して別添の「我が家の防災行動計画 マイタイムライン」を作りましょう。



相川堤防決壊 子の作り(表紙写真)
決壊口の仮締切をするため、逆まく濁流につかり表佐地区民と自衛隊員で決壊の沈床作業(堤防などの基礎や根固め)が行われました。(現在の新町会館より南東にあたる石田地区)

また、家族同士の連絡、



堤防決壊により多量の土砂が流れ込みみ河原と化した農地は、地元民の協力により全力をあげてその復旧作業が続けられました。

『あれから365日 集中豪雨・伊勢湾台風 災害記録』(昭和35年9月26日 垂井町発行)から、写真を転載、説明は同誌を参考にしました。



本ハンドブック表紙右上のこのマークは、太鼓をたたいている姿と、表佐のローマ字表記「O」「S」「A」を組み合わせたもので、西田厚史さんが作られたものです。

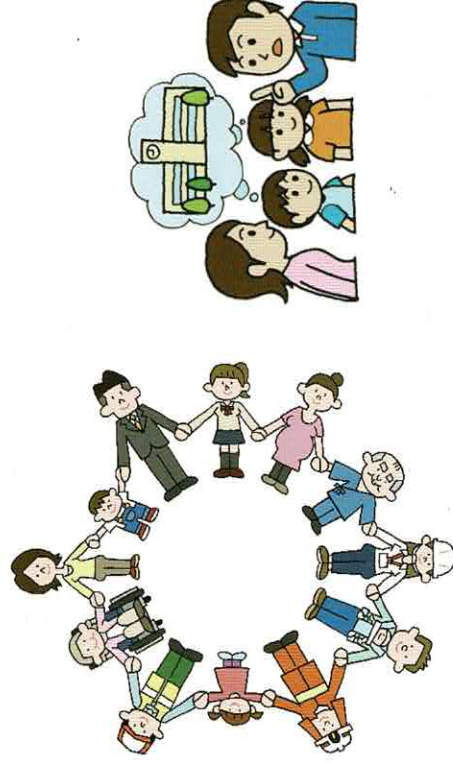
知識編

自助・共助・公助	自助・共助・公助で何ができるか	P. 1, 2
災害 地震、台風・大雨	震度とゆれ、風の程度、雨の程度	P. 3～5
防災気象情報の読み方	注意報・警報、避難情報等のとらえ方	P. 6
事前準備や災害時の情報収集 情報入手先(QRコード付き)	スマホに登録しておきましょう	P. 7
表佐地区自主防災隊	平時の防災訓練、災害時の体制は	P. 8

実践編

災害別の災害への備え	今から準備しておくこと	P. 9～13
非常用持ち出し品、非常用備蓄品	どんな物を、どれだけ用意しておくのか	P. 14～16
避難のいろいろ	どこへ避難する？どんな生活になる？	P. 17・18
家族安心カード記入例	避難所での受付、いざというときに重宝	P. 19
防災カード記入例	避難所での受付や事故にあったときに活躍	P. 20
災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板	家族や親戚との安否確認の連絡手段	P. 21
緊急連絡先一覧	必要な連絡先を記入しておきましょう	裏表紙

我が家の防災行動計画 マイタイムラインとその記入例



問い合わせ先
表佐地区まちづくりセンター内
防災ネットワークOSA
垂井町表佐 1723-1
電話・FAX: 22-1011
Mail: osakou@town.tarui.lg.jp

災害時、ふだんからの地域のつながりが力を発揮します。被害を最小限に抑え、復興に向けてともに立ち向かうためには、日ごろから地域の支え合い・助け合いによるつながりが大切です。地域のつながりがづくりをより一層進めるため、防災ネットワーク OSA とともに「私たちの防災ハンドブック」を発行します。